

論語のススメ(2)

NPO法人 論語普及会

〒531-0071 大阪市北区中津7丁目5番21号
アイオイ第一ビル303号室
TEL.06-4797-9570
FAX.06-4797-9571

⑤ 迷い悩んだ時こそ論語……

あなたの背中を押す言葉がそこにある

論語の篇や各章は、一つのテーマ別に分かれているわけではありません。各編・各章に関連性はなく、単独のもので。ですので、論語を読む時は、どこから読み始めても良いですし、どこで終わっても良いのです。今悩んでいることの、解決のヒントとなるページを偶然開くかもしれません。何気なく読んだ箇所、今求めていた言葉や教えがあるかもしれません。論語は背中を押してくれる言葉ばかりです。悩んだ時、迷った時、あなたの役に立つ言葉がきつとあるはずですよ。

私達、論語普及会は、論語を広く親しんでもらい、より良い生き方、考え方を磨き、人間的成長と人生を豊かにするための学びの会です。いかにも善人的な人間を目指すかのように感じられるかもしれませんが、そんな大層なことではなく、「思いやりのある心を持った人」になろうということです。これに関して論語では「仁」という言葉が使われます。「仁」とはつまり、「真心」のことです。自分中心の考えや、利私欲の行動ばかりにならぬよう、言葉と行動を誠実に、周囲の人に対して真心ある人になりましょう。そう伝えているのです。

『ともに共に、学ぼうではありませんか』

⑥ 論語から生まれた言葉……

四字熟語とことわざ

礼儀作法や、尊敬・感謝の気持ちの示し方、謙虚な姿勢、他者への思いやりなど、日本人が備える倫理観やマナーは「論語」を通して身に付いてきたものばかりです。また、四字熟語やことわざには「論語」が由来の言葉が多くあります。

- ・ 学而第一……「巧言令色」「切磋琢磨」「和を以って貴しと為す」「為政第二……「温故知新」「義を見て為さざるは勇なきなり」

「五十にして天命を知る」

- ・ 公治長第五……「一を聞いて十を知る」
- ・ 雍也第六……「博文約礼」
- ・ 泰伯第八……「戦々兢兢」
- ・ 顔淵第十二……「克己復礼」
- ・ 子路第十三……「剛毅木訥」

皆さんも聞き覚えのある言葉があるかと思えます。これらはいずれも「論語」から生まれてきているのです。どの言葉も孔子の教えをコンパクトに凝縮した格言ばかりです。四字熟語やことわざは、座右の銘やスローガンとして、現代でもよく使われていますね。皆さんの好きな言葉、座右の銘となる言葉を探すのも「論語」の楽しみ方の一つではないでしょうか。

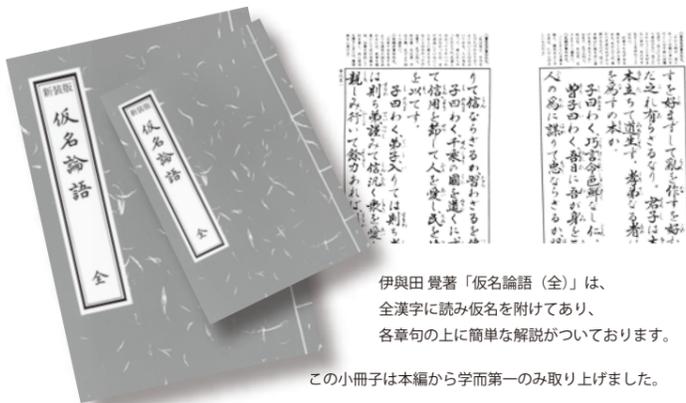
『論語は人生模様をも示す。あなたの人生を彩る言葉を見つけよう』

⑦ 素読をする……味わうように読む

素読とは、意味や内容の理解はひとまず置いておいて、文章を声に出して読むことです。何度も繰り返し読むことで、文章の真意を脳や身体に直接インプットします。そして潜在意識の中に記憶させていき、理解を深めていく方法です。江戸時代では、藩校や寺子屋で、人づかりや道徳教育の適切な方法の一つとして、明治の中頃まで盛んに行われていました。

声に出して読む・目で文字を見る・耳で音として聞く・身体と心で感じるという、感覚器官を通じて心身に染み入るように読んでいくこと。それが素読の本質なのです。心身の感覚をフルに使って、論語の言葉を味わってほしいのです。

『感覚を磨き、自己を研ぎ澄ませます』



伊與田 覺著「仮名論語(全)」は、全漢字に読み仮名を付けてあり、各章句の上に簡単な解説がついております。この小冊子は本編から学而第一のみ取り上げました。

仮名論語拡大版 A5サイズ 374頁
(字を大きくして、より見やすく読みやすく)
頒 価 1,900円+税
会員頒価 1,700円(税込)

仮名論語ポケット版 A6サイズ 374頁
(ポケットに入れて、外出用に便利)
頒 価 1,400円+税
会員頒価 1,100円

購入は下記へ(送料実費。1万円以上の購入は送料無料)

〒531-0071
大阪市北区中津7丁目5番21号 アイオイ第一ビル303号室
NPO 法人 論語 普及 会
TEL:06-4797-9570(代)
FAX:06-4797-9571
E-mail rongo@violin.ocn.ne.jp

學而第一
子曰わく、學びて時に之を習う亦説はしからずや。朋遠方より来る有り亦樂しからずや。人知らずして愠みず亦君子ならずや。
有子曰わく、其の人と爲りや孝弟にして上を犯すを好む者は鮮なし。上を犯

すを好まずして亂を作すを好む者は未だ之れ有らざるなり。君子は本を務む本立ちて道生ず。孝弟なる者は其れ仁を爲すの本か。
子曰わく、巧言令色鮮なし仁。
曾子曰わく、吾日に吾が身を三省す。人の爲に謀りて忠ならざるか、朋友と交

りて信ならざるか、習わざるを傳うるか。
子曰わく、千乗の國を道くに、事を敬し
て信用を節して人を愛し、民を使りに時
を以てす。
子曰わく、弟子入りては、則ち孝出でて
は、則ち弟、謹みて信、汎く衆を愛して、仁に
親しみ行いて、餘力あれば、則ち以て文を

學べ。
子夏曰わく、賢を賢として、色に易え、父
母に事えて能く、其の力を竭し、君に事え
て能く、其の身を致し、朋友と交るに言
て信あらば、未だ學ばずと曰うと、雖も吾
は必ず之を學びたりと謂わん。
子曰わく、君子重からざれば、則ち威あ

らず。學べば、則ち固ならず。忠信を主
とし、己に如かざる者を友とすること無
かれ。過ては、則ち改むるに憚ること勿
かれ。
曾子曰わく、終を慎み、遠きを追えば、民
の徳厚きに歸す。
子禽、子貢に問うて曰わく、夫子の是の

邦に至るや、必ず其の政を聞く、之を求め
たるか、抑、之を與えたるか。子貢曰わ
く、夫子は温良恭儉讓、以て之を得たり。
夫子の之を求むるは、其れ諸れ人の之を
求むるに異なるか。
子曰わく、父在せば、其の志を觀、父没す
れば、其の行を觀る。三年、父の道を改む

る無くんば、孝と謂う可し。
有子曰わく、禮の和を用て、貴しと爲す
は、先王の道も斯を美と爲す。小大之に
由れば、行われざる所あり。和を知りて
和すれども、禮を以て之を節せざれば、亦
行らばからざるなり。
有子曰わく、信義に近ければ、言復むべ

きなり。恭禮に近ければ、恥辱に遠ざか
る。因ること、其の親を失わざれば、亦宗
とすべきなり。
子曰わく、君子は食飽くを求むること
無く、居安きを求むること無し。事に敏
にして、言に慎み、有道に就きて正す。學
を好むと謂うべきのみ。

子貢曰わく、貪しくして、詔うこと無く、
富みて驕ること、無きは、何如。子曰わく、
可なり。未だ貪しくして、道を樂しみ、富
みて、禮を好む者には、若かざるなり。子
貢曰わく、詩に云う、切するが如く、磋する
が如く、琢するが如く、磨するが如しと。
其れ斯を之れ謂うか。子曰わく、賜や、始

めて、與に詩を言うべきのみ。諸に往を
告げて來を知る者なり。
子曰わく、人の己を知らざるを患えず、
人を知らざるを患うるなり。